

NPO入門

担当教員 小阪 亘

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

教育学 I

担当教員 野見 収

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

「教育学」という学問領域がよって立つ地平を、社会、発達、思想、生命、人権、平和といった観点から確認し、今後、学生が教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角を提供する。本講義を通じて、教育という営みに対する学生の興味関心が、より深いものになることを期待する。

【授業の展開計画】

- 1 インTRODakション
- 2 学力と教育（1）－「学力低下」問題①
- 3 学力と教育（2）－「学力低下」問題②
- 4 発達と教育（1）－野生児の記録①
- 5 発達と教育（2）－野生児の記録②
- 6 特色ある教育の思想と実践（1）－シュタイナー教育①
- 7 特色ある教育の思想と実践（2）－シュタイナー教育②
- 8 ジェンダーと教育（1）
- 9 ジェンダーと教育（2）
- 10 生命と教育（1）－優生学と教育①
- 11 生命と教育（2）－優生学と教育②
- 12 人権と教育（1）－差別と教育①
- 13 人権と教育（2）－差別と教育②
- 14 平和と教育（1）－沖縄戦と教育①
- 15 平和と教育（2）－沖縄戦と教育②
- 16 定期試験

【履修上の注意事項】

遅刻、私語、無断欠席は認めない。毎回、授業終盤に小レポートを課す。

【評価方法】

受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、5回以上欠席した場合には、期末試験の受験ないし期末レポートの提出を認めない。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。レジユメを配布する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

教育学Ⅱ

担当教員 野見 収

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教育という営みを支える基礎原理を、歴史・思想・制度といった多角的な視点から読み解き、その限界と可能性を確認しながら、今後の教育のあるべき姿を学生とともに模索する。教育学Ⅰと同じく、学生が今後、教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角の提供を目的とする。

【授業の展開計画】

- 1 イントロダクション
- 2 子ども理解について（1）—臨床心理学の知見①
- 3 子ども理解について（2）—臨床心理学の知見②
- 4 教師と教育（1）—今日の教師をとりまく社会的状況①
- 5 教師と教育（2）—今日の教師をとりまく社会的状況②
- 6 教師と教育（3）—「教師—生徒」関係の課題
- 7 性と教育（1）—性教育の現状
- 8 性と教育（2）—性教育の歴史
- 9 性と教育（3）—性と人間発達の理論
- 10 教育の現代的課題（1）—適応障害について①
- 11 教育の現代的課題（2）—適応障害について②
- 12 教育の現代的課題（3）—モンスター・ペアレントについて
- 13 歴史と教育（1）—歴史教科書問題を考える①
- 14 歴史と教育（2）—歴史教科書問題を考える②
- 15 いのちの教育について
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

遅刻、私語、無断欠席は認めない。毎回、授業終盤に小レポートを課す。

【評価方法】

受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、5回以上欠席した場合には、期末試験の受験ないし期末レポートの提出を認めない。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

協働社会論

担当教員 -具志 真孝

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

社会の変化が著しく、地域住民の生活が多様化・複雑化していく中で、社会を構成する多様な主体（市民、企業、行政等）による協働のまちづくりを推進していくことが強く求められている。その中で、新たな公共の担い手として、NPOが注目されており、本授業では、主として、NPOと行政との協働のあり方や事例を通して、協働のまちづくりを考える機会とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	「NPOとは何か」～市民活動と社会的役割～
2	「NPO法人とは何か」～法人化の手続きとメリット等～
3	「那覇市におけるNPO活動支援の取り組み」
4	「オーストラリアの事例紹介(1)」
5	「オーストラリアの事例紹介(2)」
6	「非営利組織の経営」～原理と実践～
7	「まちづくりの考程・情報生産技術(1)」
8	「まちづくりの考程・情報生産技術(2)」
9	「指定管理者制度の概要」
10	「指定管理者制度の事例紹介」～主に那覇市の事例を通して～
11	「協働のまちづくりとは」～主にNPOと行政との関わりの視点から～
12	「協働のまちづくりの事例紹介(1)」～社会教育行政を通して～
13	「協働のまちづくりの事例紹介(2)」～那覇市公民館の事例研究～
14	「協働のまちづくりの事例紹介(3)」～那覇市公民館の事例研究～
15	まちづくりコーディネーターの社会的役割と可能性
16	まとめ～振り返り～

【履修上の注意事項】

協働のまちづくりに関心のある学生の参加を望む。

【評価方法】

授業の出席日数、レポート等を勘案して評価する。

【テキスト】

特に、指定はない。適宜レジュメ、資料等を配布する。

【参考文献】

- ・「協働のデザイン～パートナーシップを拓く仕組みづくり、人づくり～ 世古一穂著 学芸出版社
- ・「にいがたまちづくり事典マチダス」企画・編集・発行 財団法人ニューにいがた振興機構 制作(株)博進堂
- ・「指定管理者制度に関する運用指針」～平成24年7月19日那覇市長決裁～

経済学 I

担当教員 一董 宜嫻

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

職業人必須の経済学基礎を実践的に訓練する。また、地元沖縄経済について入門的な内容を講義する。テキストを解説しながら、補助的にミクロ経済学用語やグラフを説明する形式で授業を行う。経済学部以外の学生も対象となっているので、経済学の知識は前提としないが、経済学部以外の学部は2年次からの履修をお勧めする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	沖縄経済入門の紹介(テキスト)
2	ミクロ経済学の基礎(プリント)
3	ミクロ経済用語とグラフの見方(プリント)
4	沖縄の小売業—サンエの経済学(テキスト)
5	経済用語—規模の経済、範囲の経済、固定費用、総費用等(テキスト、プリント)
6	基地の経済学(テキスト)
7	経済用語—外部不経済、情報の非対称性、付加価値、機会費用(プリント)
8	失業問題の経済学(テキスト)
9	経済学用語—完全失業率、一人当たり県民所得、賃金の硬直性(テキスト、プリント)
10	市場の概念と機能について理解する—完全競争、寡占、独占の意味(プリント)
11	市場の概念と機能について理解する—県内の独占企業の事例(沖縄電力)
12	企業の価格戦略について理解する—価格と限界費用 の関係($p=, >mc$)、損益分岐点(プリント)
13	需要・供給曲線の均衡と社会的余剰について理解する(プリント)
14	マクロ経済学の基礎(プリント)
15	マクロ経済学の基礎 (プリント)
16	課題の提出と期末テスト

【履修上の注意事項】

- ①積極的な出席が必要である。授業中に練習問題を解答することもよくある。
- ②プリント学習と課題に取り組むことが必要である。

【評価方法】

課題一回、期末テスト、出席などで総合的に評価する。テストの成績よりも課題の方を重視する。

【テキスト】

沖縄国際大学経済学科編(2014年)『沖縄経済入門』東洋企画

テキストは授業と課題両方に使う予定なので、購入することが望ましい。適宜、学習プリントを配布する。

【参考文献】

講義で紹介する。

経済学Ⅱ

担当教員 平敷 卓

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では経済学の入門編として、経済学の考え方から特にマクロ経済学のエッセンスを学習するとともに、経済学的視点から経済現象や社会問題を読み解く力、論理的に考える力を修得することを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス、授業評価方法等について
2	経済学とは何か？—マクロ経済学のアプローチ
3	マクロ経済学と経済指標
4	GDPと三面等価の原則
5	消費と貯蓄の考え方
6	企業の投資
7	政府の支出
8	前半のまとめ
9	総需要の経済学—ケインズ経済学(1)
10	総需要の経済学—ケインズ経済学(2)
11	金融市場と金融政策
12	政府による所得分配(1)
13	政府による所得分配(2)
14	日本における財政政策と金融政策
15	講義のまとめ
16	期末テスト

【履修上の注意事項】

基本的な講義マナーを守ることを求めます。毎回出席をとり、講義の理解度を測るため、複数回小テスト等を行う予定としています。評価方法については一回目のガイダンスで詳しく説明します。

【評価方法】

期末テスト 70% フィードバックペーパー(小テスト込) 30%

3分の2以上の欠席は、期末テストの受験資格を失います。

欠席届の提出により、欠席が出席扱いになることはありません(公欠を除く)。

【テキスト】

特に指定しませんが、マクロ経済学の入門書等を各自参照し、基礎的な考え方を踏まえておくが良い。講義では適宜プリントを使用。

【参考文献】

家森信善「基礎からわかるマクロ経済学【第3版】」中央経済社

※他、適宜紹介します。

社会学 I

担当教員 末吉 重人

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は共通科目であるため、親しみやすさを目指し前期は興味を持ちやすいアップデートな「社会問題」を扱う。

【授業の展開計画】

第1回	シラバスの説明	第9回	ゆとり教育と詰め込み教育、沖縄の学力問題
第2回	マスコミ論入門	第10回	社会福祉入門
第3回	マスコミの中立性 ビデオ視聴	第11回	知らないと損する社会保障
第4回	各紙の論調の比較検討	第12回	ビデオ視聴とその解説
第5回	家族問題入門	第13回	安全保障論
第6回	子どもの社会問題 ビデオ視聴	第14回	戦争の歴史
第7回	ジェンダーの問題	第15回	各種アプローチの紹介
第8回	教育問題	第16回	試験

【履修上の注意事項】

毎回、授業の最後に出席確認を兼ねたコメント表を提出してもらおう。次回の授業の最初に、コメントへの回答を行う。なるべくQ&A形式で授業を進行したいため、質問を大いに歓迎する。私語は厳禁。退場もある。これは厳格に行う。授業に出席しないとテストが解けないので、そのつもりで受講すること。

【評価方法】

期末テスト（80点）と出席点（20点）で評価する。

【テキスト】

『書き込み式社会学入門』（末吉重人、球陽出版、2007年：500円）

【参考文献】

伊江朝章、波平勇夫、鵜飼照喜編『現代教養としての社会学』、福村出版、1989年

社会学Ⅱ

担当教員 末吉 重人

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

後期はやや深刻な社会問題を扱う。その際、社会学理論がどのように役立つかを学ぶ。社会学成立の背景となったフランス革命をおさらいし、特に最近やっと三万人を下回り始めた自殺者問題をフランスの社会学者エミール・デュルケムの際に扱う。また共同体の持つ仲間への親しみの情と他人への冷遇の「二重倫理の問題」（マックス・ウェーバー）を、沖縄の社会事業史を手掛かりに学ぶ。沖縄が社会的弱者に対し、温かくはなかったことを振り返る。

【授業の展開計画】

第1回	シラバスの説明	第9回	宗教に焦点を当てたウェーバー社会学
第2回	社会学の始まりーコントと仏革命	第10回	宗教が判らないと21世紀は読めない
第3回	自殺論とデュルケム社会学	第11回	キリスト教とはどのような宗教か
第4回	デュルケムの自殺理論と自殺統計	第12回	その他の世界宗教をウェーバーはどう見たか
第5回	自殺関連のビデオ視聴とその解説	第13回	沖縄社会を社会事業史で解く
第6回	20世紀を席卷したマルクス主義社会学	第14回	昔の沖縄に福祉が存在したか
第7回	20世紀と社会主義革命	第15回	沖縄社会論（沖縄はかつて優しかったか）
第8回	ビデオ視聴とその解説	第16回	試験

【履修上の注意事項】

質問用紙へのコメントを用いたQ&A形式で授業を進行することが理想。どのタイミングでの質問を大歓迎する。しかし私語は厳禁。退場もある。これは厳格に行う。授業に出席しないとテストが解けないので、そのつもりで履修すること。

【評価方法】

前後期とも期末テスト（80点）と出席点（20点）で評価する。

【テキスト】

『書き込み式社会学入門』（末吉重人、2010年：500円）前期と同じテキスト。

【参考文献】

『社会学講義』富永健一、中公新書、1995年初版、900円

社会生活課題研究 I

担当教員 崎浜 靖

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本ゼミでは、フィールド科学としての地理学について、理解を深めることに主眼を置いている。前半は文献購読と地図の利用方法などの地理学の基礎理論を学び、後半は野外において、具体的な調査方法・技能の体得を目指すことをねらいとする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	前期ガイダンス	17	後期ガイダンス
2	地理学の方法①	18	統計地図の作成①－統計と地図の関係－
3	地理学の方法②	19	統計地図の作成②－ドットマップの作成－
4	地図と地形図①－地図の種類－	20	統計地図の作成③－階級区分図の作成－
5	地図と地形図②－縮尺・方位・記号－	21	フィールドワークの方法①
6	地図と地形図③－等高線－	22	フィールドワークの方法②
7	地図と地形図④－地形断面図の作成－	23	フィールドワークの方法③
8	地図と地形図⑤－接峰面図の作成－	24	フィールドワークの実際①
9	地図と地形図⑥－水系と流域界－	25	フィールドワークの実際②
10	地図と地形図⑦－水系次数－	26	フィールドワークの実際③
11	地図と地形図⑧－読図の基礎－	27	調査研究の発表①
12	地図と地形図⑨－読図の応用－	28	調査研究の発表②
13	地図と地形図⑩－土地利用図の見方	29	調査研究の発表③
14	地図と地形図⑪－土地利用図の作成－	30	巡検②
15	巡検①	31	後期の反省
16	前期の反省と課題		

【履修上の注意事項】

- (1)ゼミナール形式の授業なので、受講生の主体的な学びが必要である。
- (2)地域調査・巡検などは、講義の時間以外に行うこともあるので、留意すること。
- (3)受講に際しては、地理学関連の科目を履修していることが望ましい。

【評価方法】

出席状況、フィールドワークへの参加、調査レポートなどで総合的に判断します。

【テキスト】

テキスト：毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

参考文献：参考文献は適宜紹介する。

社会生活課題研究 I

担当教員 宮城 弘樹

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、博物館活動を模擬的に体験する講義と実習を行う。博物館機能における、「調査・研究」「展示」「教育」や「博物館運営」を模擬的に体験するため、各自事前準備を怠らないこと。

自ら沖縄の歴史・文化に関心を寄せ、地域の身近な実物資料を観察。実際に資料に触れ、これまで身につけた各専門分野の観察視点に基づき、豊かな思考力でモノ資料を探究する楽しみを他の受講生とともに行う。博物館実習で行うであろう技能を事前に身につけ、共調性、課題解決力、企画力、表現力等を養い博物館の諸活動で適応できる能力を身につける。

【授業の展開計画】

1. 前期ガイダンス（講義の目的、進め方について）
2. 博物館と学芸員について
3. 講義の計画と行程について
- 4～7. 展示会テーマ選択（1年間取り組むテーマを提案・決定）
8. 展示会運営のための組織の構築
- 9～14. 展示計画と資料の収集
15. 学期末試験
16. 後期ガイダンス

17～30. 展示会準備／12月頃に2週間程度展示会開催（予定）

31. 学期末試験

【履修上の注意事項】

講義を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語・飲食）は、心得ておくこと。また、与えられたテーマに対して各自事前準備を怠らず授業に臨むこと。特に課題などの提出期限は厳守すること。

【評価方法】

テストの他、出席、各自の取り組みや貢献度を評価対象とする。

【テキスト】

基本的にゼミ形式で行い、各自計画をたてそれぞれ資料調査、資料の作成、成果の発表をお願いする。

【参考文献】

課題にあわせて適宜紹介する。

社会生活課題研究 I

担当教員 金城 敬太

対象学年 3年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 一般講義

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、様々な分野で利用が必要となる、データ処理とその統計的な分析について、実際に調査の仕方を通してデータの収集の仕方を学び、次にパソコンを用いた分析を行っていききたいと思います。表計算ソフトであるExcelやRを用いて、受講者が手を動かしながら、表や統計分析を行っていきます。これらは社会に出ても利用できるスキルになります。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	統計・調査入門	17	R入門
2	統計の考え方	18	Rプログラミング
3	文献調査	19	Rプログラミング
4	文献調査	20	関連その他
5	仮説および質問紙作成	21	検定
6	中間レポートの発表	22	検定
7	調査および集計	23	重回帰分析
8	分布	24	重回帰分析
9	クロス集計表	25	ロジスティック回帰
10	相関・回帰分析	26	主成分・因子分析(1)
11	回帰分析	27	主成分・因子分析(2)
12	その他の分析手法	28	共分散構造分析
13	発表	29	共分散構造分析
14	最終レポート作成方法	30	クラスタリング
15	最終レポート作成の手伝い	31	最終発表
16	まとめ		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

実習の授業であるので出席(50%)と、最終課題・発表の提出(50%)により判断します。

【テキスト】

【参考文献】

社会生活課題研究Ⅱ

担当教員 金城 敬太

対象学年 4年

単位区分 選択

開講時期 通年

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、様々な分野で利用が必要となる、データ処理とその統計的な分析について、実際に調査の仕方を通してデータの収集の仕方を学び、次にパソコンを用いた分析を行っていききたいと思います。表計算ソフトであるExcelやRを用いて、受講者が手を動かしながら、表や統計分析を行っていきます。これらは社会に出ても利用できるスキルになります。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	統計・調査入門	17	R入門
2	統計の考え方	18	Rプログラミング
3	質問紙の作り方	19	Rプログラミング
4	文献調査	20	関連その他
5	文献調査	21	検定
6	仮説および質問紙作成	22	検定
7	中間レポートの発表	23	重回帰分析
8	調査および集計	24	ロジスティック回帰
9	分布	25	中間発表
10	クロス集計表	26	主成分・因子分析（1）
11	相関・回帰分析	27	主成分・因子分析（2）
12	回帰分析	28	共分散構造分析
13	その他の分析手法	29	共分散構造分析
14	発表	30	クラスタリング
15	最終レポート作成	31	最終発表
16	まとめ		

【履修上の注意事項】

【評価方法】

実習の授業であるので出席（50%）と、最終課題・発表の提出（50%）により判断します。

【テキスト】

【参考文献】

社会福祉入門 I

担当教員 竹藤 登

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 現代社会における社会福祉の意義、理念について理解させる。
2. 社会福祉の歴史・理念の変遷について理解させる。
3. 現代社会福祉の重要課題を理解させる。
4. 福祉新法について理解させる。
5. 人権と権利、権利擁護システムについて理解させる。
6. ソーシャルワークの実践を理解させる。

【授業の展開計画】

講義方式

1. 社会福祉とは 社会福祉の視点
2. 福祉の理念の変遷 歴史的背景 ノーマライゼーション
3. 福祉基礎構造改革 措置から契約へ
4. ソーシャルワーカーとは ソーシャルワーカーの役割
5. 障がいとは、障がい者の心理
6. 自立とは 自立支援とエンパワメント
7. 障害者総合支援法の概要
8. 高齢者福祉、介護保険法の概要
9. 生活保護法の概要
10. 児童福祉法の概要
11. 人権と権利(高齢者虐待対応) アドボカシー支援
12. 権利擁護システム(苦情解決・オンブズマンシステム)
13. 権利擁護システム(成年後見制度の概要)
14. 成年後見活動の実際
15. ソーシャルワーク実践事例(成年後見事例)
16. まとめとテスト

【履修上の注意事項】

授業はその場でよく聞いて理解するように。
わからない専門用語は、その場で質問するか、質問用紙に書くと、翌週解説する。

【評価方法】

期末テスト 出席率 毎回授業後に実施する小レポートで評価

【テキスト】

その都度資料配布

【参考文献】

社会福祉入門Ⅱ

担当教員 竹藤 登

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 社会福祉援助技術の実際について理解させる。
2. 倫理性を身につける。
3. 個別援助技術を学ぶ。
4. 集団援助技術を学ぶ。
5. ケアマネジメント手法を学ぶ。
6. 社会福祉運営管理方法を学ぶ。
7. スーパービジョンを体験する。

【授業の展開計画】

講義形式及び演習形式

1. 自己覚知演習①
2. 自己覚知演習②
3. コミュニケーション技術演習
4. 面接技法演習
5. 利用者理解 利用者の困難性を環境因子から考える
6. 価値と倫理 倫理綱領を考える
7. 社会福祉援助技術の基本原理と種類
8. 個別援助技術（ケースワーク）の実際
9. 集団援助技術（グループワーク）の実際
10. 地域援助技術（コミュニティーワーク）の実際
11. ケアマネジメント手法の実際
12. ケアマネジメント演習 アセスメントからプラン作成
13. 社会福祉運営管理の実際（福祉経営五本の柱）
14. リスクマネジメント リスク管理と苦情解決
15. スーパービジョンの実際
16. まとめとテスト

【履修上の注意事項】

演習方式の授業もありますので、積極的に参加すること。
わからない専門用語などは積極的に質問すること。
毎回授業後に提出する小レポートは、自分の考えをしっかりと書くこと。

【評価方法】

期末テスト、出席率、毎回授業後に実施する小レポートで評価する。

【テキスト】

その都度資料配布

【参考文献】

生涯学習概論

担当教員 宮城 弘樹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度・施策・行政機関、また家庭教育と学校教育・社会教育との関連、専門的職員の役割、学習活動への支援等についての理解に関する基礎的能力を養う。具体的には、沖縄の社会教育施設等における事業等について学び、施設の機能や職員の役割、施設の課題点について一緒に考えていく。

生涯学習の意義について理解し、直面する地域の課題について教育・学習の視点から、博物館等の社会教育施設の担う存在意義を考え、学芸員としての資質を養うことを目標とする。

【授業の展開計画】

近くの博物館等が実施する生涯学習事業に参加し、発表を1回予定する。

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス（講義の目的、進め方について）
2	生涯学習社会の意義と生涯学習社会の構築
3	学習者と生涯学習
4	学校教育、社会教育、家庭教育の役割
5	生涯学習の意義と特性
6	生涯学習の内容と指導者
7	生涯学習行政の展開
8	歴史・民俗系博物館の実践
9	自然史博物館・動植物園の実践
10	美術館の実践
11	公共図書館の実践
12	地域の公民館と生涯学習
13	住民参加の学び
14	生涯学習の実践について（補足・まとめ）
15	テスト
16	

【履修上の注意事項】

講義を受講する上での最低限のマナー（携帯電話・遅刻・居眠り・退出・私語・飲食）は、心得ておくこと。また、課題などの提出期限は厳守するものとし、締切日以降の提出は一切受け付けない。

【評価方法】

出席、課題（博物館等における生涯学習の実践）の発表、テストを評価対象とする。

【テキスト】

基本的に講義形式で行い、毎回資料を配布予定。

【参考文献】

鈴木真理ほか（編著）2011年『生涯学習の基礎[新版]』学文社。伊藤俊夫2010年『新訂 生涯学習概論』ぎょうせい。伊藤寿朗1993年『市民のなかの博物館』吉川弘文館。沖縄県博物館協会（編）2008年『沖縄の博物館ガイド』東洋企画印刷。

生涯学習概論

担当教員 吉田 肇吾

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

生涯学習及び社会教育の意義と本質、生涯学習社会を支える各公共施設の専門職員に必要な考え方や職務内容を理解する。

そのため、教育分野全体の法体系、行財政などを取り上げ、家庭・学校・社会教育の関連性を把握する。さらに、生涯学習社会を支える各公共施設の地域社会への関わりと役割、MLAなどの連携・協力、そして施設を担う専門的職員の機能・役割について解説する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生涯学習の概念
2	生涯学習・教育論の展開
3	生涯学習社会における家庭・学校・社会教育 1
4	生涯学習社会における家庭・学校・社会教育 2
5	日本の社会教育
6	教育関連の法体系
7	自治体の教育行財政
8	社会教育の内容・方法・形態
9	生涯学習社会と教育施設の関連性
10	社会教育施設1-1：公民館：管理・運営・職員
11	社会教育施設2-1：博物館：管理・運営
12	社会教育施設2-2：博物館：職員：職員（学芸員）
13	社会教育施設3-1：公共図書館：管理・運営
14	社会教育施設3-2：公共図書館：職員（司書）
15	教育関連施設の連携・協力
16	試験

【履修上の注意事項】

出席回数が3分の2に満たない者には、原則として単位を与えない。

【評価方法】

出席状況とレポート（または期末試験）による総合評価とする。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

政治学 I

担当教員 芝田 秀幹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

政治学をはじめて本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動などについて全般的に理解できるように講義する。とりわけ、「政治学 I」では現代政治学の基本理論を整理・紹介するとともに、現実が生じている政治的な諸問題についても随時言及し、それらを解決するための「ヒント」を学問的見地から提供したい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	開講オリエンテーション - 「居酒屋政治談義」を超えて -
2	政治
3	政治学
4	政治権力
5	政治体制
6	政治過程
7	選挙 (1)
8	選挙 (2)
9	政党 (1)
10	政党 (2)
11	官僚制
12	利益集団・市民運動
13	マスメディア
14	地方自治
15	講義のまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

「政治学 II」も履修することが望ましい。

【評価方法】

定期試験の結果とリアクションペーパーで判断。

【テキスト】

使用しない。プリントを適宜配布。

【参考文献】

開講時に指定。

政治学Ⅱ

担当教員 芝田 秀幹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

政治学をはじめて本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動などについて全般的に理解できるように講義する。とりわけ、「政治学Ⅱ」では、社会科学における「実験」に相当する「比較」という方法を用いて世界トップレベルの研究成果を提示してきた、フランスの政治学者マテイ・ドガンの学説を手がかりに講義を行う。大局的な視点から各国政治や世界政治の実態を勉強することで、学生諸君の視野は「井の中の蛙・・・」を乗り越えて、一挙に全世界的視座へと成長するであろう。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	開講オリエンテーション
2	社会科学と政治学
3	社会科学に「パラダイム」は存在するかー社会科学の発展法則
4	比較という方法
5	社会諸科学のハイブリッド化
6	ポスト産業社会における階級
7	ポスト産業社会における宗教
8	ポスト産業社会における「地位の非一貫性」
9	西欧民主政諸国における政治への信頼の腐食
10	人間不信・制度不信・政党不信・政治家不信
11	ナショナリズムによる不信から相互の信頼へ
12	イギリスとイタリアーデモクラシーは生き残れるか
13	政治体制の正統性と脱正統化
14	ウェーバーの類型学の陳腐化
15	講義のまとめ
16	試験

【履修上の注意事項】

「政治学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【評価方法】

定期試験の結果、リアクションペーパーで判断。

【テキスト】

マテイ・ドガン、櫻井陽二・芝田秀幹訳『比較政治社会学の新次元』（芦書房、2010年）。

【参考文献】

開講時に指定。

男性学

担当教員 一砂川 秀樹

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

長らく日常生活においても、学問世界においても、人の「一般像」とされるものは男性イメージに基づくものだった。それに異論を唱えたのが女性学であり、フェミニズムである。そして、その視点を持った学問では、性別がどのようにイメージされ強化されてきたか分析され論じられてきた。だが、その中でも、男性性とはどういうものとしてつくられ、認識され、経験されているか思考されることは少なかった。この授業では、「男性性とは」という問いについて考えながら、性別がどのように構築されているのかということ的思考をしたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講師自己紹介、授業内容について、授業を受ける上での心得
2	「性別」について考えてみよう（1）…体の性とは
3	「性別」について考えてみよう（2）…ジェンダーとは
4	男性性とセクシュアリティ
5	文化と男性性（1）…文化による性別をめぐる多様性
6	文化と男性性（2）…男性性のつくられ方
7	文化と男性性（3）…自文化における男性性
8	メディアと男性（1）…メディアの見方の基本
9	メディアと男性（2）…雑誌での描かれ方
10	メディアと男性（3）…物語と男性性
11	男性をめぐる問題（1）…男性と自死
12	男性をめぐる問題（2）…男性性と生きやすさと
13	多様な男性像（1）
14	多様な男性像（2）
15	まとめ
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

遅刻、私語には厳しく対応します。

【評価方法】

試験により評価する。授業態度により減点あり。

【テキスト】

【参考文献】

デイヴィッド・ギルモア1994『「男らしさ」の人類学』春秋社。田中雅一、中谷文美2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社。

地理学 I

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地理学は地球上の自然環境や産業、文化などについて、地域という視点から考察する総合科学である。地理学 I では、地球上の自然環境と資源と産業について学習する。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	地形 ①
2	地形 ②
3	気候 ①
4	気候 ②
5	植生と土壌、水資源について
6	自然災害と環境問題①
7	自然災害と環境問題②
8	世界の農業形態①
9	世界の農業形態②
10	世界の農業形態③
11	林業と水産業
12	エネルギーと資源
13	世界の工業地域①
14	世界の工業地域②
15	世界の工業地域③
16	テスト

【履修上の注意事項】

小レポートを数回提出してもらう。また、この授業は教科書と地図帳および配布プリントをベースとして進めるので、必ず教科書と地図帳は購入すること。なお、地図帳については、高校生用の地図帳がある場合にはそれでもかまわない。出席を重視するので1/3以上欠席した場合には単位は認定しないので、注意すること。また、追試・再試は行わない。

【評価方法】

小レポート、テスト、出席状況で総合的に判断する。

【テキスト】

『新詳 資料地理の研究』、帝国書院 定価980円
『新詳高等地図』、帝国書院 1,500円

【参考文献】

授業の中でその都度紹介する。

地理学 I

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地理学には、特定の地域を対象に自然環境から社会環境について総合的に記述する地誌学と、系統科学との関係から地域をみる系統地理学による分類がある。また、自然環境を主に地域的特性を考証する自然地理学と、人文・社会現象を主に地域的特性を考証する人文地理学による分類もある。総じて言えることは、「自然と人間」「空間・場所と人間」との関わりを明らかにすることが地理学の役割である。本講義では、自然と人間の関係性を考える環境論的視点から講義を進める予定である。

【授業の展開計画】

- 1 地理学の成立と本質
- 2 地図の歴史
- 3 地図の利用方法
- 4 地域と景観①－韓国済州島の景観－
- 5 地域と景観②－韓国済州島の景観－
- 6 地域と景観③－ミクロネシア地域の景観－
- 7 地域と景観④－ミクロネシア地域の景観－
- 8 地域と景観⑤－台湾の景観－
- 9 地域と景観⑥－台湾の景観－
- 10 環境と生態①－乾燥地域の環境－
- 11 環境と生態②－湿潤地域の環境－
- 12 環境と生態③－熱帯地域の環境－
- 13 環境と生態④－寒帯地域の環境－
- 14 開発と環境変化①－都市域の拡大とヒートアイランド現象－
- 15 開発と環境変化②－都市と経済－
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。出席と課題の提出を重視するので、注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席状況により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

地理学Ⅱ

担当教員 小川 護

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

地理学は地球上の自然環境や産業、文化などについて、地域という視点から考察する総合科学である。地理学Ⅱでは、地図とGIS、地理学の歴史、生活文化とグローバル化について学習する。必要に応じて、パワーポイント(スライド)やビデオ教材の利用、参考文献の紹介、講義関連資料等の配布も随時行う予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	生活空間の拡大と地図の発達
2	さまざまな地図
3	地形図の活用の仕方
4	地形図の活用の仕方
5	地理情報システムとリモートセンシング
6	村落と都市①
7	村落と都市②
8	消費と余暇行動
9	人口と食糧①
10	人口と食糧②
11	交通と通信
12	貿易と経済的な結びつき
13	国家と民族・文化
14	地域開発
15	21世紀の地理学ーこれからの地理学ー
16	試験

【履修上の注意事項】

小レポートを数回提出してもらう。また、この授業は教科書と地図帳および配布プリントをベースとして進めるので、必ず教科書と地図帳は購入すること。なお、地図帳については、高校生用の地図帳がある場合にはそれでもかまわない。出席を重視するので1/3以上欠席した場合には単位は認定しないので、注意すること。また、追試・再試は行わない。

【評価方法】

小レポート、テスト、出席状況で総合的に判断する。

【テキスト】

『新詳 資料地理の研究』、帝国書院 定価980円
『新詳高等地図』、帝国書院 1,575円

【参考文献】

授業の中でその都度紹介する。

地理学Ⅱ

担当教員 崎浜 靖

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

地理学には、特定の地域を対象に自然環境から人文環境について総合的に記述する地誌学と、系統科学との関係から地域をみる系統地理学による分類がある。また、自然環境を主に地域的特性を考証する自然地理学と、人文・社会現象を主に地域的特性を考証する人文地理学による分類もある。総じて言えることは、「自然と人間」「人間と空間・場所」との関わりを明らかにすることが地理学の役割である。本講義では、人文地理学に重点を置いて、立地論的な視点から講義を進める予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義ガイダンス
2	地理学と地図①
3	地理学と地図②
4	立地と空間①－農業－
5	立地と空間②－農業－
6	立地と空間③－農業－
7	立地と空間④－工業－
8	立地と空間⑤－工業－
9	立地と空間⑥－工業－
10	立地と空間⑦－商業－
11	立地と空間⑧－商業－
12	立地と空間⑨－商業－
13	立地と空間⑩－観光－
14	立地と空間⑪－観光－
15	立地と空間⑫－観光－
16	期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。出席と課題の提出を重視するので、注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席状況により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

日本国憲法

担当教員 井端 正幸

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

近代以降の憲法は、基本的人権の保障と統治の機構を主な構成要素としている。その理念や基本原理をふまえた上で、現実の諸問題を考えなければならない。

この講義では、基本的人権の概念とその保障のあり方、日本社会における憲法問題、憲法をめぐる最近の諸問題、などを取り上げる予定である。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	法・憲法とは何か — 国家と法、人権保障
3	基本的人権の歴史 — 近代と現代
4	二つの憲法と人権保障 — 臣民と国民
5	「平和に生きる権利」と安全保障 — 平和主義の現在
6	外国人に人権は保障されるか — 人権の享有主体
7	「法の下での平等」の現在 — 「平等」原則と人権保障
8	ビデオ「22歳の涙が生んだ“男女平等”」視聴
9	信教の自由と政教分離原則
10	表現の自由の規制と違憲審査
11	知る権利と情報公開
12	プライバシー権と個人情報の保護
13	営業の自由と財産権の保障
14	人間らしく生きる権利
15	教育を受ける権利と働く権利
16	試 験

【履修上の注意事項】

必要に応じて講義の際に指示する。

【評価方法】

- (1) 評価の基本は学期末の論述試験とする。
- (2) 必要に応じて、小テストを行うかレポートの提出を求める。

【テキスト】

テキストは使用しない（講義の際にレジюме・資料等を配付する予定）。ただし、日本国憲法の規定・条文が載っているものを持参することが望ましい（たとえば、以下の参考文献には巻末に日本国憲法の規定が資料として掲載されている）。

【参考文献】

- (1) 井端正幸・渡名喜庸安・仲山忠克編『憲法と沖縄を問う』法律文化社
- (2) 永田秀樹・和田進編『歴史の中の日本国憲法』法律文化社 等

日本国憲法

担当教員 長嶺 弘善

対象学年 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

【授業のねらい】

日常生活における契約や人生における婚姻について規定する民法、あるいは犯罪と刑罰について規定する刑法など、私たちは、様々な法の下で生存している。そして、憲法は国家の最高法規であり、憲法に根拠・授權されて民法や刑法が制定されるということは、私たちの生存に関わる根本法規は憲法であるということになる。できるだけ現実に生起する憲法問題を題材にして憲法の基本原理を理解するようにしたい。また憲法にとどまらず、民法や刑法などとの関連も念頭に置きながら講義を進める。通常の授業形態であるが、時々、学生の間に入って行って、質問をする。対話を通して共に考えていきたい。もちろん、学生からの質問は大いに歓迎する。

【授業の展開計画】

第01週：大学と憲法：憲法と単位の関係
第02週：国民投票：私たちが憲法を作る
第03週：国家と法：憲法の意味、分類
第04週：立憲主義：憲法原則（三大原則と四大原則）
第05週：平和主義：日本国憲法の特長および天皇制
第06週：人権保障：人権の分類及び国民の義務
第07週：包括的人権1：幸福追求権、プライバシー権
第08週：包括的人権2：「法の下での平等」
第09週：精神的自由権：信教の自由、表現の自由
第10週：経済的自由権：職業選択の自由
第11週：社会権：生存権、教育を受ける権利
第12週：三権分立1：国民の意思の集約（立法）
第13週：三権分立2：国民のための政治（行法）
第14週：三権分立3：国民の権利の守護（司法）
第15週：憲法改正・最高法規性
第16週：期末試験

【履修上の注意事項】

テキスト（必携）を一読して出席し、講義に集中すること。講義中は、飲食・携帯・私語は禁止です。質問は大歓迎です。講義の聞きっぱなしでなく、テキスト再読・ノート整理など、自学すること。やむを得ず欠席した講義の分は独習すること。

【評価方法】

評価基準および欠席の扱いについては、本学学則による。憲法の基礎的理解について、期末試験（穴埋め式および正誤式）で評価する。なお、得点調整が必要な場合は、出席を考慮（1割内）する。

【テキスト】

尾崎利夫・鈴木晃著『憲法入門講義』（法律文化社） 2,300円

【参考文献】

播磨信義・他編著『新・どうなっている！？日本国憲法 憲法と社会を考える〔第2版〕』（法律文化社） 2,415円
六法：『ポケット六法』（有斐閣）他

日本国憲法

担当教員 西山 千絵

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

この講義は、法・政治・行政に関心がある法学を専門としない学部学生を対象に、「日本国憲法」を題材として必要な知識の習得を目的としています。日本国憲法の各条項に定められている内容とその基底にある原理の概要を学習します。[1]国家機関の権限、[2]憲法によって保障された基本的権利の意義、[3]憲法の基礎にあってこれを支える理念、これらを理解できることが到達目標であり、教職や公務員を志望する学生にとっての基礎力形成にもつながる講義にしたいと考えています。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス（憲法のイメージ）
2	憲法の最高法規性
3	私人間効力—憲法の性質
4	幸福追求権
5	平等
6	信教の自由
7	政教分離
8	表現の自由
9	表現の自由②
10	経済的自由①
11	経済的自由②
12	生存権
13	生存権②
14	公共の福祉
15	参政権
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

指定した教科書に沿って、講義形式で授業を進めていきますが、授業中の解説がわからないときなどは質問をしてください。できる限り丁寧な授業を心がけるつもりです。

【評価方法】

期末試験（筆記試験）のみで評価します。

【テキスト】

大林啓吾ほか『トピックス憲法』（三省堂、2014年）

【参考文献】

- ・大石眞『判例憲法〔第2版〕』（有斐閣、2012年）
- ・法制執務用語研究会『条文の読み方』（有斐閣、2012年）

ビジネスの倫理

担当教員 一親泊 元彦

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

ビジネスにおける倫理とは何か、について学んでいく。昨今の企業の不祥事等がメディアで頻繁に取り上げられているが、その背景にあるものに迫る。更に、これからの働き方や職業観についても議論を深める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス（講義概要、受講の仕方、ゴール設定）
2	ビジネスにおける倫理とは何か
3	企業の社会的使命とは
4	企業の存在意義とその価値について
5	社会で働くことの意味・意義について
6	事例紹介及びその補足・解説 1
7	事例紹介及びその補足・解説 2
8	事例紹介及びその補足・解説 3
9	企業の経営理念とは
10	理念経営と社会貢献について
11	個人の価値観と人生理念について
12	組織の目標と個人の目標について
13	従業員満足（ES）と顧客満足（CS）について
14	これからの「ビジネス倫理」のありかた
15	講義のまとめ
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

出席を重視する。毎回、フィードバックペーパーを提出してもらう。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題・レポート等の提出及びその内容、学期末試験等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

特に指定はありません。必要に応じて講義の際にプリント・レジュメ等を配布する。

【参考文献】

講義の際に、紹介します。

文化人類学 I

担当教員 比嘉 理麻

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義では、文化人類学の基本的な視点を学び、人間の文化的多様性と普遍性について理解することを目的とする。文化人類学は、異文化理解を通じて、我われにとって自明な枠組みを内省し、普遍的な人間理解へと到達することを目指す。本講義では多様なトピックの議論から、人間の多様性から普遍性の理解へと向かう道筋を具体的に示していく。さらに、近年の文化人類学のテーマとして、観光、開発、先端医療技術、戦争、科学技術等の最新理論を取り上げ、常に変化する人間とその文化・社会の新たな可能性を模索する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	文化とは
3	フィールドワークと民族誌
4	映像鑑賞
5	親子関係の多様性
6	ジェンダーと生殖
7	通過儀礼
8	信仰と世界観
9	贈与交換
10	映像鑑賞
11	観光と開発
12	医療・病・身体
13	暴力と戦争
14	科学技術
15	総括
16	試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況・リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって総合的に評価する。

【テキスト】

とくに指定しない。

【参考文献】

講義時に重要な文献は随時紹介する。

文化人類学 I

担当教員 栗国 恭子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

世界の様々な民族社会・文化を比較研究する学問が文化人類学（民族学）である。様々な地域・環境で生きる民族文化から多様な「人間の在り方」を考えてみる。様々な「人間の在り方」に触れることで、それぞれの民族の文化・社会は独自性を持ちながらも孤立するものでもない。他民族の文化と沖縄・日本に暮らす自身の文化とどのようにつながっているのかを理解する。19世紀中頃に誕生した学問・文化人類学の方法論や視点を学ぶ。＜民族＞、＜自然＞、＜技術＞、＜表現（表象）＞そして＜観光＞・＜開発＞をキーワードにアジア・日本・沖縄の民族文化に触れ、その中で世界をめぐる現代問題を考える。パワーポイント、映像資料などを用いた講義構成。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化人類学とはどのような学問か 人種と民族、方法論、マイノリティー（少数派）へのまなざし
2	＜民族＞と現代性…＜民族＞概念のあり様、＜国家＞との関り、＜民族＞をめぐる現代の課題
3	＜民族文化＞の語りと時代性…占領・記憶・沖縄をめぐる
4	文化人類学学説史…文化人類学の理論（社会進化論、伝播論、機能主義、構造主義、象徴主義）
5	＜民族＞と文化表象論… 民族研究と博覧会・民族博物館の展示をめぐる
6	＜民族文化＞と博覧会…沖縄・東アジア（朝鮮・台湾）植民地主義の近代システム・表象
7	生活の技術・経済の技術①海に生きる人々。トロブリアント諸島クラ交換。島嶼社会の平和・秩序観
8	生活の技術・経済の技術② 海に生きる人々 スルー海の漂海民 ①国籍とは？国境とは？
9	環境と文化①…照葉樹林文化 アジア・沖縄・日本の自然環境と暮らしの共通性を知る。
10	世界の食文化「人は何を食べているか」、現代食文化と日本・アジア問題・グローバル・環境問題
11	空間認識の文化 東アジアの空間認識・風水・首里城・民俗方位
12	東アジアの造形・色彩文化 紙（中国、日本、沖縄の紙の文化）
13	身体加工・装飾文化 身体概念・アジアの入墨文化・人生儀礼
14	文化の記録・金属技術 中国の少数民族文化③ ウイグル自治区中国・カシュガル
15	「もの」と人間社会…金属の技術② 東アジア・日本・沖縄の金属文化にふれる。
16	テスト・レポート

【履修上の注意事項】

図書館（分類380）で世界の民族や関係本の読書や、留学生との交流、様々なメディアの情報からアジアの民族に関する知識を積極的に広げてほしい。講義のテーマについてコメントや意見を述べることなど、積極的な授業参加を求める。

【評価方法】

日常の受講態度（出席・発言等）と講義で扱ったテーマ関連内容についてのテストかレポート提出（学期末）で評価する。

【テキスト】

特定の教科書指定はなし。各時間講義用のレジュメ・資料は配布する。ビデオなどを使用し、重要な参考文献などは講義の中で紹介する。

【参考文献】

重要参考文献は講義中で紹介。参考文献は①『文化人類学』祖父江孝男篇 中公新書、②『文化人類学』波平恵美子編 医学書院 2002、③『よくわかる文化人類学』綾部恒雄・桑山敬己編 ミネルヴァ書房、2006、④山下晋司編『文化人類学キーワード』有斐閣双書、1997、⑤『文化人類学最新術語100』綾部恒雄編 弘文堂 2002など。

文化人類学 I

担当教員 山本 ブードロウ 成

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

文化人類学Ⅱ

担当教員 比嘉 理麻

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は特定トピックにしぼり、文化人類学の専門的な視点と方法を養うことを目指す。具体的には「人と動物の関係」を切り口にして、現代社会において「食べる・生きる」ことの意味を問う。最終的には自らの人間中心主義的なものの見方を相対化し、より多様な人と動物の関係を捉える視点を養うことを目標とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	現代社会と人間中心主義
3	理論① 食をめぐる唯物論と意味論の論争
4	理論② 動物機械論と動物霊魂論
5	理論③ 動物人格論
6	食をめぐる問題① 食の安全（狂牛病とクローン羊）
7	食をめぐる問題② 生活習慣病と肥満
8	食をめぐる問題③ 動物の屠殺に対する差別
9	食物／パートナーとしての動物① アニマル・ファクトリー
10	食物／パートナーとしての動物② ペット家族論
11	食物／パートナーとしての動物③ 韓国の犬食とナショナルリズム
12	人と動物の共生① 動物解放論とベジタリアン
13	人と動物の共生② アニマル・ウェルフェア
14	人と動物の共生③ アニマル・セラピー
15	総括
16	試験

【履修上の注意事項】

【評価方法】

出席状況・リアクションペーパー（30%）と試験（70%）によって総合的に評価する。

【テキスト】

とくに指定しない。

【参考文献】

講義時に重要な文献は随時紹介する。

文化人類学Ⅱ

担当教員 石垣 直

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、文化人類学の諸理論について基礎的な理解を得ることにある。本講義に先立つ「文化人類学Ⅰ」では、生活に関連した諸トピックを取り上げることによって人類社会の多様性と普遍性を論じた。それを踏まえて本講義では、これまでに提出されてきた様々な人類学理論をレビューすることを通じて、人類学（理論）からみた人類社会のありようについて理解を深めることを目指す。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス
2	「文化人類学」とは何か——人類学と「異文化」理解
3	人類進化の歴史——地球／生物／人類の歴史
4	社会進化論・伝播論・新進化論——人類史の一般化
5	文化とパーソナリティ論・心理人類学——「文化の型」、民族性
6	映像鑑賞——人類学者の仕事・『南太平洋の人々』
7	機能主義（1）——「社会の仕組み」を考える
8	機能主義（2）——「社会関係の基礎」としての「親族」
9	構造主義（1）——発想の由来とエッセンス
10	構造主義（2）——構造分析とその影響力
11	映像鑑賞——構造主義の復習&応用編・『音楽の正体』
12	認識・象徴人類学と解釈人類学——「文化」の捉え方
13	構造と実践——構造／歴史／主体性
14	日本の人類学——歴史と現在
15	まとめ——人類学理論と人類社会・文化の理解
16	テスト

【履修上の注意事項】

「文化人類学Ⅰ」の単位を取得したうえで本講義を履修することが望ましい。
 毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（30%）、筆記試験（70%）
 毎回の授業時に出席および授業参加姿勢を確認するためのレスポンス・ペーパーの提出をもとめる。また、学期中間あるいは学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する）。

【参考文献】

綾部恒雄（編）2006『文化人類学20の理論』弘文堂
 石川栄吉ほか（編）1995〔1987〕『文化人類学事典』弘文堂

文化人類学Ⅱ

担当教員 栗国 恭子

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

世界の様々な民族社会・文化を比較研究する学問が文化人類学（民族学）である。様々な地域や環境で生きる多くの民族文化から多様な「人間の在り方」を考えてみる。様々な「人間の在り方」に触れることで、それぞれの民族の文化・社会は独自性を持ちながらも孤立するものでもない。他民族の文化と沖縄・日本に暮らす自身の文化とどのようにつながっているのかを理解する。19世紀中頃に誕生した学問・文化人類学の方法論や視点を学ぶ。〈民族〉、〈宗教〉、〈表現（表象）〉そして〈観光〉・〈開発〉などをキーワードにアジア・日本・沖縄の民族文化に触れ、その中で世界をめぐる現代問題を考える。パワーポイント、映像資料などを用いた講義構成。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	文化とは何かー文化人類学とはどのような学問か・課題と方法ー
2	民族を捉える視点ー人種と民族、変化する〈民族〉概念ー
3	〈民族〉と取り巻く今日的問題ー人種差別・民族紛争ー
4	文化人類学学説史 民族概念・進化主義・伝播主義・機能構造主義
5	文化表象① 展示 文化表象 民族博物館と展示と文化表象
6	文化表彰② 文化ポリティクスとマイノリティー
7	宗教人類学① 超自然・呪術と宗教・アニミズム 「宗教概念」の確認
8	宗教人類学③ 宗教と現代/カルト
9	宗教人類学④ 「靈魂観」の文化象徴ー空飛ぶものの文化ー
10	構造人類学 レヴィ・ストロースの仕事 「サンタクローズの秘密」
11	観光人類学① 文化の語り「文化表彰と観光」「創造される伝統」
12	観光人類学② 伝統文化と観光 中国の中のチベット文化
13	開発と文化① 異文化接触 文化の変容 ブラジル（カヤポ族）
14	開発と文化② グローバル化と文化変容
15	開発と文化③ 文化は誰のものかー開発と日本と世界ー
16	テスト・レポート

【履修上の注意事項】

図書館の図書分類380コーナーの文化人類学・民族学の多くの本に触れ学問 イメージを膨らませて欲しい。

【評価方法】

出席・毎時間の感想の確認と学期末のレポートで評価する。

【テキスト】

指定テキスト特になし

講義用のレジュメ・資料は配布する。ビデオなどを使用し、重要な参考文献などは講義の中で紹介する。

【参考文献】

『文化人類学』祖父江孝男編(中公新書)『文化人類学』波平恵美子編(医学書院)『よくわかる文化人類学』綾部・桑山編(ミネルヴァ書房)『文化人類学キーワード』山下晋司編(有斐閣)『文化人類学最新術語100』綾部恒雄

法学

担当教員 西山 千絵

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本講義は、法・政治・行政に関心があるものの法律学を専門としない学部学生を対象とし、労働、住宅の賃借・売買、金銭の貸借、各種の事故と責任、あるいは婚姻などといった、各人の日常生活に最も関わりを深くもつ「民法」について学ぶものです。判例などの事例に依りつつ、民法の基本的な仕組みかつその重要な内容を学習することで、とくに公務員を志望する法学部生以外の学生にとっての基礎力形成につながる講義にしたいと考えています。後期の法学は「婚姻や家族の法」を主体とした講義となりますので、どちらか興味のもてる方を選んで、授業に参加してください。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	ガイダンス・民法のイメージ
2	契約・法律行為
3	権利能力・意思能力・行為能力
4	売買の交渉から契約の成立①
5	売買の交渉から契約の成立②
6	売買の交渉から契約の成立③
7	売買の交渉から契約の成立④
8	契約の履行・不履行
9	契約が履行されなかったときの法的処理①
10	契約が履行されなかったときの法的処理②
11	契約が履行されなかったときの法的処理③
12	契約が履行されなかったときの法的処理④
13	その他の紛争の法的処理①
14	その他の紛争の法的処理②
15	その他の紛争の法的処理③
16	学期末試験

【履修上の注意事項】

指定した教科書に沿って、講義形式で授業を進めていきますが、授業中の解説がわからないときなどは質問をしてください。できる限り丁寧な授業を心がけるつもりです。

【評価方法】

期末試験（筆記試験）のみに基づき決定します。

【テキスト】

米倉明『プレップ民法〈第4版増補版〉』（成文堂、2009年）

【参考文献】

道垣内弘人『リーガルベシス 民法入門』（日本経済新聞出版社、2014年）

池田真朗『民法はおもしろい』（講談社、2012年）

『ポケット六法 平成27年版』（有斐閣、2014年）

法学

担当教員 長嶺 弘善

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

法は社会における人々の行為規範として機能しており、私たちは法と向き合って暮らさざるをえない。日常生活における物品購入・借家・借金・保証などの契約関係、交通事故などの損害賠償、婚姻・離婚と親子の問題における法的保護、そして人の生死にかかわる法律問題など、さまざまな法現象が存在する。講義はできるだけ具体的事例に即しておこない、法とは何か、法はこの社会においてどのように機能しているのかを理解することを目標とする。そして、身の回りに生起する具体的な問題を法的に思考し、解決する助けとなることを期待する。

【授業の展開計画】

毎回の授業はそれぞれ異なる分野についておこなうが、法的思考において関連するので、休まずに出席することが、理解の助けとなる。

週	授 業 の 内 容
1	登録確認および導入：法現象
2	六法の使い方：大学の単位と法
3	社会規範としての法：道徳の法化
4	法の分類：公法と私法、私法の一般法
5	出生と法：権利能力、法律行為能力
6	裁判制度：人の行為の法的評価、紛争解決
7	親族の法：親族、親子、親権
8	夫婦の法：婚姻、離婚
9	相続の法：相続、遺言
10	犯罪と刑罰：罪刑法定主義
11	契約の法：私的自治、契約自由
12	不法行為：損害賠償論
13	法の制定：立法権と脳死立法
14	基本的人権：幸福追求と平等
15	まとめ：最高法規としての憲法
16	期末試験

【履修上の注意事項】

テキストを一読し、六法を持参して出席し、講義に集中すること。質問大歓迎。
講義の聞きっぱなしでなく、テキスト再読・ノート整理など、自学すること。

【評価方法】

評価基準および出欠席の扱いについては、『学則』・『学部履修規程』による。
期末試験（穴埋め式および正誤式）で評価する。
試験得点調整が必要な場合、出席を考慮する（1割程度）。

【テキスト】

教科書：平野武・平野鷹子著『私たちと法〔2訂版〕』法律文化社（1,900円）
法令集：『ポケット六法 平成27年版』有斐閣（1,800円）等

【参考文献】

竜崎喜助『生の法律学【改訂版】』（尚学社）、君塚正臣『高校から大学への法学』（法律文化社）

ボランティア論

担当教員 島村 枝美

対象学年 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】